



あづみへず 通信

第12号 2017年3月発行

●年2回 半期毎の再生協の主なニュースなどを掲載します。(10月・3月発行)

**あづみ
農**

ホームページアドレス
http://
azumi-nou.com/

発行

安曇野市農業再生協議会事務局
(安曇野市農林部農政課内)

TEL 0263-71-2000
FAX 0263-71-2507

生産振興事業

問い合わせ：電話71・2428

●玉ねぎを つくってみませんか

市農業再生協議会では、稲作に代わる転作物の一つとして、玉ねぎを重点品目として生産振興に取り組んでいます。

玉ねぎは市場価格が高値で安定しており、米の単作や穀類の複合経営に比べ収益率の高い品目で、専用機械を導入することで生産労力の省力化を図ることが可能です。

玉ねぎの生産では、収穫作業後の乾燥・調製・出荷作業に多くの労力がかかり、栽培面積拡大が伸び悩む大きな要因となっていました。この問題の改善を目指し、JAあづみでは平成29年3月に豊科高家の米低温倉庫を改修し、玉ねぎの「共同乾燥調製施設」を設置しました。

一日に20トンが処理でき、2週間以上かかっていた乾燥作業が2日で完了します。選別等出荷作業もJAで行うため、生産者の労力を大幅に軽減することが期待されます。

当協議会では、生産者の皆さんに各種の補助や施設を有効に活用していただくことで、農業所得向上を図りたいと考えています。



▲①根切り葉切り機（土を払い、葉や根を切り落とします）



▲②乾燥室（玉ねぎに温風を通し、48時間で乾燥を仕上げます）



▲③選別機（玉ねぎを傷つけずに箱詰めまでできます）

玉ねぎ生産に対する補助等

・安曇野市

（平成28年度からの市単独事業）
玉ねぎ用機械の導入および機械定植用苗の購入費の1/3の補助

・JAあづみ

（市場価格下落時の補償）
あづみ農協野菜価格安定事業により最低価格補償90円/kg

販売促進事業

問い合わせ：電話71・2430

●日本の「安曇野りんご」から、世界の「安曇野りんご」へ

JAあづみでは、安曇野産りんごの販路拡大のため、昨年度から海外への輸出に取り組んでいます。平成28年度からは、市の補助金を活用し香港と台湾へ21トンのりんごを輸出しました。

香港へは「シナノスイート」と「王林」、台湾へは「シナノスイート」と「ふじ」を出荷し、現地の方々に信州安曇野産のりんごを味わっていただくことができました。



▲香港の店頭に並び「安曇野りんご」

昨秋は、台風18号の被害により数量は少ないものの、輸出する前の選果では1つ1つ手に取り、傷やさびの有無を確認して選別し、選果機械で大きさや熟度などを判別して等級ごと丁寧に箱詰をしております。これからも引き続きJAあづみりんでは、輸出货量1万ケースを目指して、安曇野産りんごのPRをしていきます。

●ラジオCMご参加

ありがとうございます

農業に込める思いや地産地消、安曇野の農業の魅力、農業者自身の言葉でコメント発信していただいたラジオCM企画。21戸の農家の皆さんに参加いただき、30本のラジオCMを制作、昨年8月から12月にかけてあづみ野FMで放送しました。家族での参加もあり、スタジオでは一緒に収録した農業者同士で会話が弾み、和気あいあいと



▲香港の店頭に並び「安曇野りんご」

平成28年産 JAあづみりんご輸出実績

行先	品 種	出 荷 数 (1ケース10キロ入り)
香港	シナノスイート	600
	王 林	320
台湾	シナノスイート	1,008
	ふ じ	185
合 計		2,113

した雰囲気でも収録できました。ご参加いただいた皆さん、ありがとうございます。参加者からは好評の感想がある一方で、放送回数や時間等の面で改善の意見も寄せられ、今後のPR事業の参考にしていきたいと思っております。今後も安曇野の農業の魅力発信にご協力をよろしく願います。

●南安曇農業高校

主催による「信州安曇野農業フォーラム」が開催されました

平成28年12月16日に豊科公民館を会場として、南安曇農業高校主催による農業フォーラムが、同校と連携協定を結ぶ安曇



野市・松本大学の他、県農業改良普及センター、地域の農業士協会、農業者協会の共催により、初めて開催されました。「安曇野の地域資源を活かしたブランドづくり」をテーマとし、松本大学の山根宏文教授による基調講演と、代表生徒2名を含む7名でのパネ

ルディスカッションが行われ、生徒約350名を含む432名が参加しました。

●ゆるキャラグランプリ(GP)

2016年投票へのお礼と2017年応援のお願いについて

昨年、安曇野産農産物PRの一環として、地域おこしや名産品・団体の紹介などを行うマスコミトキヤラクターのお祭り、ゆるキャラGPに「安曇野の農産物を応援する妖精 あづみくず」を代表して、「新芽と水の妖精 みずん」が初エントリーしました。

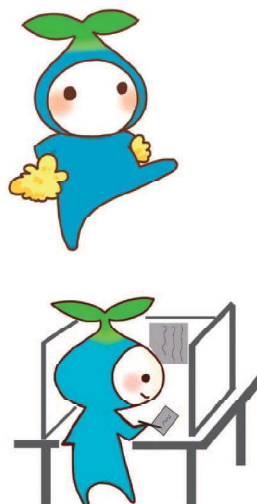
結果は、得票数1,397票で、「総合」1,421体中801位、「企業・その他部門」579体中302位でした。初めての参加でしたが、ゆるキャラGPで1,000票を超える投票があり、とても嬉しく思っております。

引き続き今年も、ゆるキャラGPにエントリーします。みなさまの温かい応援をお願いします。

投票開始は、8月1日(火)10時からの予定です。なお、投票は1日1回行うことが出来ま



すので、毎日の投票をお願いします。
また、応援グッズとして、あづみ農HPと市HPに「みずん折り紙折り方」を掲載しております。簡単に折ることが出来ますので、是非ご利用ください。



集落支援事業

問い合わせ：電話71・2429

●安曇野市農業後継者交流会を開催しました

平成28年12月15日（木）に市農業再生協議会農業後継者部会が中心となり、青年農業者の情報交換と交流促進を目的に「安曇野市農業後継者交流会」を開催しました。農家の後を継ぐ方や、インターン・転職などで新たに就農した方、17名が参加しました。

当日は、株式会社関東甲信クボタより担当者を招き、ドローンなどのスマート農業についての学習会を開きました。農業以外の業種では、ロボットや情報通信などの技術の活用が進んでおり、農業分野への活用も期待されてきています。国でもこうした技術を活用した新たな農業「スマート農

業」の推進について検討が行われており、今後の営農の参考のために企画されました。前半はドローンの模擬飛行を見学し、後半はスマート農業の現状や将来性について講義を受けました。農業分野の先進的な技術の話もあり、出席した人は、熱心に耳を傾けていました。

●明科地域の農業を守る会の遊休農地活用功績者表彰について

平成29年2月9日に長野市で行われた、遊休農地活用シンポジウムで明科地域の農業を守る会が「長野県農業会議会長賞」を受賞しました。

明科地域の天王原は、もともと約15haの桑園でしたが、養蚕業の衰退に伴い長期間耕作がなく荒廃農地となっていました。

明科地域の農業を守る会は、平成25年度から荒廃農地の解消を直接実施しながら、耕作者につい



ては公募を行い、解消後の農地を耕作者への農地の集約・集積の支援を行ってきました。

その結果、平成25年度から平成28年度までに約8haの荒廃農地の解消が行われるとともに、ワイン用のブドウ苗が5,400本植えられ、ワイン用ブドウの産地形成が図られています。

今回の受賞については、事業の継続性、ワイン用ぶどうの産地形成に向けた取り組み、地域の農業委員が中心になって取り組んだことが先進的事例として高く評価されました。

今後も明科地域の農業を守る会の活動が期待されています。

●荒廃農地の再生・活用について

近年、安曇野市の農業を取り巻く環境は厳しさを増し、農業後継者不足、猿やニホンジカなどの有害獣による食害、荒廃農地の発生などがあります。

この中でも安曇野の美しい景観を維持するうえで荒廃農地対策は非常に重要です。

市内の荒廃農地面積は、平成28年度調査で39・2haで、平成27年度調査の57・5haに比べ大幅に減少しました。

荒廃農地面積減少については、地域の皆様の農地の保全管理の取り組みの成果と考えています。

市では農業者等が行う荒廃農地を再生・活用する取り組みを推進するために、荒廃農地再生に係る支援を行っています。

荒廃農地の再生についてお考えの方は、農政課集落支援担当までご相談ください。

お知らせ

●凍霜害に備えて対策を実施しましょう

霜対策として、ペール缶を用いた安価で簡単な方法があります。詳細は、当協議会HP（あづみ農）をご覧ください。併せて、防災情報メール配信サービスもご利用ください。

●凍霜害防止にメール配信を

活用しましょう

霜や、大雪、暴風雨など、気象変動は農作物へ多大な影響を及ぼします。

気象による災害の未然防止と被害軽減のため、メール配信サービスを登録し、情報を有効に活用しましょう。

◇長野県メールマガジン配信サービス「長野県」

「チエック」ながの県農業サポートメール」県から農業に関する天候被害防止情報をお届けします。詳しくは県HPをご覧ください。

http://www.pref.nagano.lg.jp/nogf/sangyo/nogyo/gijutsu/mail_magazine.html



◇安曇野市メール配信サービス【安曇野市】

市から防災情報等を配信します。詳しくは市HPをご覧ください。

http://www.city.azumino.nagano.jp/soshiki/4/85.html



直接登録する場合は、こちらへ空メールを送って登録してください。
ipan@info.city.azumino.nagano.jp



●果樹園の新設費用を補助します

昨年度に引き続き、果樹新植支援事業を実施します。

●対象者

市内に住所を有する農業者、農業法人等で業として果樹を5a以上新植する人。ただし、他事業から該当事業の実施にかかる補助を受けていないこと。

●補助対象経費、補助率、申請方法

詳細は、農政課生産振興担当へお問い合わせいただくか市HP（トップ）申請書ダウンロード（産業）農林水産業 をご確認ください。

●募集期間

平成29年11月末まで（予定）※予算上限あり

●「産地パワーアップ事業」

事業要望を募集します

●対象事業

一定のまとまりをもった「産地」として、販売額の10%以上の増加や生産コストの10%以上の削減等に取組むための次の事業（補助率：1/2以内）。

- ①施設整備（乾燥調製施設等）
- ②資材購入（パイプハウス、果樹棚等）
- ③リースによる機械導入
- ④共同利用機械の購入

●面積要件（産地の面積）

水稲50ha、露地野菜・果樹10ha、施設野菜・露地花き5ha、施設花き3ha等（中山間地の場合には要件緩和あり）。

●募集期間

平成29年8月頃まで（予定）

問：農政課生産振興担当（電話71-2428）
いずれも、早めにお問い合わせください。

安曇野市農業再生協議会 ホームページのご案内

「あづみ農」で検索してみてください！

協議会の活動など、情報を発信しています。

今回のお誘い

事業実績報告書のススメ

農業における日頃の気になる内容が掲載されているかもしれませんが、年度別でご覧いただけます。

担当者のおススメ 「芝を活用した畦畔管理」畦畔管理の省力化を目指した検証について紹介されています。

今後も、旬な食材レシピなど新しい企画も含めて農業に関する話題を発信します。

HPアドレス <http://azumi-nou.com/>

事務局のつぶやき

住んでみたい街ランキングに安曇野市が上位に選ばれていることがある。イメージでの得票なのだろうけれど、自然環境が豊かそう、というのは選ばれる要素の一つなのではないだろうか。そんな安曇野の風景に、農の営みはなくてはならないものだ。
春本番、農作業も本格化する時季となった。残雪の山並みが水田に映る、大好きな季節がやって来る。